

ピアノの本

Vol. 5 Mar.'76

ピアノの本 第二巻 第二号（通巻第五号） 昭和五十一年二月十五日発行 発行所 東京都渋谷区神宮前四一三四一〇 千150 草思社 定価八〇円

ヤマハ・ウッド・シリーズ

YAMAHA
日本楽器製造株式会社



Wシリーズの最新機種

W-104

天然木化粧板・ミンディ

あざやかな色彩が
映えるミンディ。
お部屋に華やかさを
添えるピアノです。

ハツと目をひく美しい貴婦人のようなW-104。「部屋全体が明るくなった」と好評です。

WシリーズはW-101からW-105まで5機種そろっています。

いずれも自然の木の感触を生かした新しい時代のピアノです。

お部屋に合せてお選びください。

W-104 標準小売価格：¥560,000
(専用椅子つき)

ヤマハでは、音の資料として「防音のお話」「音のエチケット」を用意しております。

●特別寄稿●

音楽のある人生

フランス・クリダ



フェリックス・ヴァロトン画「ラ・サンフォニー」(1893年)

私の家族に音楽家はいない。歌への愛は強かったとはいえ、それも「ディレクター」のはんいにとどまっている。

私は五才の時からピアノを始めたが、「音楽家になる」などとは考えもつかなかった。いわゆるふつうの勉強をしていたのである。音楽院へ入ろうと思いついたのもずっと後になってからだ。しかし次第に音楽は私の生活の中で大きな位置を占めるようになっていった。レコードを聴き、音楽に関する本を読み、楽譜の山を解読した。そうはいってもこれは全く強制されたわけではなく、音楽家になろうという野心とはかけ離れた興味だったのである。

一九五六年にブダペストで開かれたフランス・リスト国際コンクールで賞をとるまで、いくつかの小さなきっかけ(エルネスト・アンセルメ指揮、スイス・ロマン・オーケストラとの協演やフランスでの何回かのコンサート)を除いて、私はピアニストとしてのキャリアを開くいとぐちをもっていなかった。この賞をとったと同じ時期にデッカがはじめて私にロシア音楽(ストラヴィンスキー、プロコフィエフ、スクリャービン、バラキレフ、ラフマニノフ)を集めたレコードを録音させてくれた。しかし私はプロのピアニストとして賭けて行くにはまだ早すぎると思っていた。

私には長い時間をかけて集中することが必要なのだ。それがなくては進歩はできない。そのためにプロとしての私のアーティスト活動はゆっくりと、しかし自然に進

写真・内藤忠行



ピアノの本・第5号 目次

特別寄稿・音楽のある人生…フランス・クリダ ③	②1 わたしのレッスン法
キャンパス拝見…札幌大谷短期大学 ⑥	②4 CF評判記・たとえばピアノは…
幕間のピアノ小事典(5)…船山隆 ⑩	②6 ジャズマンより愛をこめて(4)…翠川敬基
特集・グランドピアノ…グランドピアノ15の質問 ⑪	②8 楽譜こぼれ話
カリクシュタイン・グランドピアノを語る ⑭	②9 音への心づかい・マンションずまいの防音
調律技術者にきく・ピアノえらびのこつ ⑲	③0 ピアノの知識(5)…(調整)

表紙・国井節 イラスト・穂積和夫

んでいったのである。

リスト・コンクールの賞が私にソリストとしてのキャリアを開いてくれたが、私は常に自分の心に決めたことを守ることにした。つまりコンサートを一年六十回以上はしないこと、それでもまだ多すぎるかもしれない。新しいレパートリーを研究し、考える時間は絶対に必要だからである。この条件で私はリストのピアノ曲全曲のレコーディングを引き受けたのだ。

これは私の最も素晴らしい経験のひとつだった。レコーディングが進むにつれ、リストの表現している人間性の難しさが感じられた。彼は決してテクニク的なものを背景とした伝統的な構成を音楽に描き出そうとしたのではない。彼は自分のものにできる全てのもの、あらゆる芸術の知識、哲学、いくつかの外国語、を身につけ、その才能を歌曲、シンフォニー、器楽曲にいたる音楽の全領域でほとばしらせたのである。彼は私にとっては思考の寄りどころである。私はまた他の分野での鍛錬も経験し、人生に関する個人的な思索にもふけた。

楽器を練習してもテクニクは熟達するが、音楽的なものは実らない。しかもこれによって閉じた世界に自分を押しこめてしまう危険性が音楽家にはある。音楽は確かに抽象芸術であり、その真実を探り、コミュニケーションするにあたって言葉の壁を取り去ってしまふ魔法も持っている。しかし一方、この抽象性が音楽家の壁となり、社会や政治、そして極端なときには文化的、知的な生活から遠ざけてしまう。これは今だに充分語られたことが



なく、私たち音楽家をおびやかしている危険性なのである。全力をあげて私たちはこれに立ち向わねばならない。私の先生たちは私にいろいろなものをもたらしにくれた。しかしピアノでは、個人の経験が実際には多くを教えてくれるものである。テクニクは絶対的かつ理論的な規則ではない。自分の表現したいことを表現する手段であるべきなのだ。また、音楽的な要求が増えるにつれ、それを実現させるために具体的な方法を見つけたかと思うものである。その点ではピアニストの人生の面白さは一般的な音楽家のそれと変わりない。作品理解を深めるというのは、純粹に美学的な面だけではなく、その時代や文化の根本的な問題に関わるより深いところまでつながってくるのだ。私が現代の作品よりも古い時代の作品を集中して弾いていることに驚かれるかもしれない。まず第一に私はリストの作品を総体的に魅惑的な美しいものとしてではなく、彼の存在理由に直接関わるものとしてとらえている。もし現代の音楽が私たちの心の葛藤や悩みの証であるとすれば、ロマン派の時代の音楽もその通りなのである。また十九世紀のこの音楽なしには二十世紀のピアノ音楽は生れなかったであろう。その意味からも私は十九世紀の作品に大きな興味と情熱を抱くのである。ロマン派のピアノは死んだと言われ、ロマン派的なピアノの演奏方法は衰退している、さらには消滅したと言うのが流行のようになっていく。私はそうは思わない。昨日と今日の間には完全な連続性があるのだし、比類ない作品を弾くピアニストは常に必要に違いない。



私をリストに長年に渡って結びつけたのは義務的な感情ではなく、彼の音楽が私にとって重要だったからである。しかもこうしたひとつの文化的な経験に強く関わると、その作品が過去のものであろうと現在のものであろうと、作品に表わされたものに深く相通じ合えるものである。

しかし音楽の目的はコミュニケーションであることを忘れてはならない。私にとって生きていく上で大切なのは、他の人たち、他の人間存在のために音楽をする、ということである。私の中には思索を練りたいという望みと他人とわかり合いたいという願いとがある。これをつきつめて考えると、むくいのない行為などない、と思えてくる。音楽家と聴衆の間には、交換しあうものがある。贈りものやコミュニケーションは一方交通ではなく、聴衆から音楽家に向ってもなされるものなのだ。

私はたまたま二十世紀というラジオやレコードの発達した時代に生まれた。音楽は特権ではなく、全ての人のもの”でなくてはならない。そのためにレコードは大切なのだ……危険だろうか？ また私はなんでもかんでも手軽にレコーディングしたりしないようにしている。私は六セットのリスト・アルバム（二四枚）を一九六八年から七五年の間に出した。そして今二つのコンチェルト（変ホ長調とイ長調）の録音を終えたところである。次には死の舞踏とハンガリー幻想曲などやリストのパラフレーズや編曲のレコードを出す予定がある。しかし他の音楽家たちと同じように、レコードは私に大きな問題も投げかける。演奏という常につらいうつろいやすく、そして決して完全に満足の行くことのないものを封印してしまうことに対する疑問である…。



Campus

札幌大谷短期大学

北海道で唯一の私立専門校

北海道の観光シーズンというと、スズランの花咲く季節や夏休みの頃、ということになるが、北国が最もそれらしい姿をみせるのはやはり冬の雪景色の中である。札幌に大谷短期大学を訪れた日も小雪が舞っていた。「いい日に来ましたね。今日は札幌がずいぶんきれいでしょ」とピアノ科の伊藤巖先生も声をはずませた。

札幌にはもうひとつ、教育大学に音楽専攻科があるが、この大谷短大は私立では北海道

唯一の芸術専門校であり、北海道で音楽や美術をこころざそうとする者にとっては貴重な存在である。北海女学校として創立されたのが明治三十九年、短期大学が開校されたのが昭和三十六年、というから今年でちょうど創立七十年、短大としては十五周年を迎えるわけである。短大が出来た当時は保育科だけであったが昭和三十九年から音楽と美術の専攻科が設けられた。音楽科を設けるまで三年間、伊藤先生が中心となって各地の音大のシステムを研究し、いろいろと案を検討して準備したという。「音楽科としては、全部門が揃うのが理想ですが、志望してくる生徒数などを考えて、まずピアノ科と声楽科をつくろうということになりました。それからピアノや声楽を専門にするには力量の不足している学生たちや将来先生になる希望の学生たちのためにと教育音楽専攻科を考えました。作曲や理論の方のコースも置こうと思ったのですが、結局学生より先生の数の方が多くなってしまっているのではないかと(笑)、やめた方がいいと忠告されました。もう音楽科ができてから十二年目です、管や弦の方も考えたいのですが、これは地方大学の宿命といっても良いと思いますが、講師の先生が見つかりにくいんです。ですから結局は現在あるコースを充実させよ

う、ということになります」と伊藤先生は言われる。やはり教師も学生も都市へ集中してしまうのだろうか。

しかしこのピアノ科は「北海道では入りにくい、難門」という定評があるようである。音楽科は一学年約九十名の学生がいるが、そのうちピアノ科は約二十名。その二十のいすを争って毎年百名ほど志願者が集まるといふ。その二十名の学生に対して非常勤の講師を含めると約二十名の先生方が指導に当るのである。年に数回、東京芸術大学から特別講師を招いて公開レッスンも行なわれる。女子の短大、というと一般的には「花嫁学校」的



なイメージがあるが、それはここでは通用しないようだ。「お嬢さん芸ではありません」と先生からも学生からもキツパリと言われた。卒業してからも音楽関係以外のところへ就職する人は殆んどいないという。

逆に二年で一応の単位を修了しないといけないので、「レッスンをサボルなんて、とんでもない。厳しくて」。前期と後期の試験はオソロシイの一語」という。

実質的には三年制

となると、やはり二年間で修了、というのはあまりに忙しすぎ、「自分が何をこれから

どうすべきかわからない」うちに卒業せねばならない、ということにならないだろうか。「それなんです」と伊藤先生が説明された。「二年を終りますと専攻科というのがありまして、試験を受けて一年この専攻科に進むことができます。真剣にピアノと取り組もうという学生にとっては、ですからこの大学は実質は三年ですね。受験のときからそれを目指している学生も多いようです。それから専攻科の上にまた研究生というシステムもあって、これは専攻科で優秀な成績を修めた学生が進めるようになっていきます。研究生では札幌市主催の新人音楽会のオーディションに受かって出ていく人もいます。これは東京の芸大や桐朋で勉強して戻ってきた人たちと肩をならべてやるわけですから、競争も激しいんですけども、がんばってますよ」。事実、話をきかせてもらった学生たちはみな「専攻科を目ざしている」と言う。

それにピアノ科の専攻科へ進むと、室内楽のレッスンを受けることができる。この室内楽のレッスンは「日本一といわれた」そうであるが、ピアノ以外のパートは全て札幌交響楽団のメンバーが受持つのである。学生一人にプロが四、五人で一緒に合奏をしてくれるのであるから、何ともうらやましい授業であ

る。日本中でも私立の大学でこの様な室内楽のレッスンをやっているのはここだけ、という。学生たちにも「それまでは一人で黙々とやっていたのが『音楽』というものに目を向けるようになった気がします。いろんな音楽のつくり方や受けとり方を室内楽を通じて理解できる気がする。ただプロの方とはレベルが違いすぎて申しわけないような感じも(笑)チョッピリ」と評判がいい。

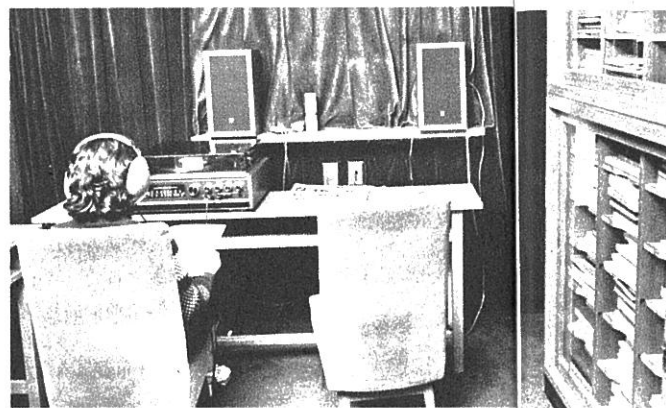
総合芸術大学への構想

それならいつそ短大から四年制に…、とは誰しも考えることらしい。

「学校の内部からよりも外部から四年制の北海道芸大にしたら、という声が強いくらいです。その構想はかなり以前からあるのですが、不幸なことにいざ実行にとりかかろうという段階になると、学長が亡くなる、といったことがあって…。この十年で二人の学長が亡くなっているんです。この学長は大谷学園(高校)の理事長も兼ねているのですが、北海道に学園が五つもありますし、それを全部みるとなると、非常な激務ですからね」という。現在の学長も今のところあまり体調がすぐれないとのこと。四年制実現の構想は目下足踏み状態に置かれている。



室内楽のレッスン(札幌の人たち)



試聴室(珍しい楽譜の書庫でもある)

五人でも男子の学生がいれば…

もうひとつ、実現させたい夢が伊藤先生にはある。男女共学である。「話し方、生活態度、勉強態度、やっぱり女子ばかりだとどうもおとなしくなってしまう。これで男の学生が五人でもいたら違ってくると思いますよ。もう少しオシャレにもなるだろうし、フアイトもちがつてくると思う。ベートーヴェンやショパンを突っ込むにしても女の子は一風変わった演奏をしませんね。男子だと叱られるのを覚悟で挑戦するようなどころがあるけれど。ピアノ科を例にとると、入学時にトップだった



講堂で保育科のオペレッタ
リハーサル風景



レッスン室

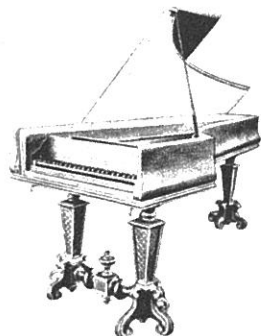
者はやはり卒業の時もトップで、逆転しないんですね。それに外部からも「早く男女共学に」という声は「苦情に近い」程高いという。北海道で音楽に専念して行きたいという男子の多くは今のところ「本州」に行くより仕方がないからである。「北海道の女子で音大志望者は幸せだ」と言われるそうである。

創立以来、「女子の教育に専念して七十年」の伝統を持つとはいえ、それに固執しているわけではないというから、四年制の構想と合せて、男女共学の夢も近い将来実現するかもしれない。学生に「男女共学は？」と尋ねると「モチロン、その方がいい」という答が明るく返ってきた。

日本でも最もクリスチアンの人口が多いといわれ、従ってミッション系の学校の比率が高い札幌で、真宗大谷派の開祖親鸞聖人の教えを創立の精神としているこの大谷短期大学はそれだけでも異色の存在といえそうである。しかし学生に宗教は全く強制されておらず、見渡したところも仏教の影を感じることはできない。印象に残ったのは地方で専門に音楽や美術を教える、または学ぶ難しさ、その困難を傍らに置いてのびやかにしかも規律正しく学生々活を楽しむ女学生たちの姿であった。

特集Ⅰ

グランドピアノ 15の質問



クリストフォリのピアノフォルテ
(1726年製)

1 流線形はいつ頃から
ピアノの前身はチェンバロやクラヴィコー
だときいていますが、チェンバロなどとく
らべてグランドピアノは曲線が自然にでき
ていよう？ 現在のようになつたのは
いつ頃からですか？

たて形のピアノに対して区別する意味で、
「グランドピアノ」と呼んでいるのは実は日
本と英語圏の国々だけなのです。ドイツ語で
はグランドピアノのことはハンマー・フリユ
ーゲル（翼）と呼んでいますし、イタリアでは
元々はピアノ・フォルテ・ア・コード（し
っぱ）と呼ばれています。いずれもあの形から
来た呼び名です。文献によると、グランドピ
アノ」という呼び方は一七七〇年頃から、英



ベートーヴェンのピアノ（ブロードウッド製）

語を話す国民の間で広まった、ということ
です。

たしかにピアノはチェンバロやクラヴィコ
ードから発達したもので、古い時代のピアノ
はチェンバロなどと外観が似ています。しか
し発音機構は大きく変わっていて、雑にいうと
チェンバロなどでは弦を爪ではじいて音を出
すのに対し、ピアノは弦をハンマーで打って
音を出します。この機構を現在に近い形では
じめて完成させたのはイタリアのクリストフ
ォリで、一八世紀はじめのことでした。当時
はピアノの外側の板をつくるにも、四角な板
を切り出して何枚かをはぎ合せて響板の外側
に貼る、ということしか出来ませんでしたか
ら、どうしても角のある形になっていました。

サ

作品目録番号 作曲家自身による
自作の番号づけの〈作品番号〉（〈オ
パス〉の項参照）に対し、音楽学者
など他人による作品の整理番号。最も有名な
のはモーツァルトのケッヘル番号である。K.な
いしK.V.と記されるケッヘル番号は、〈Köchel
-Verzeichnis（ケッヘルの目録）〉の略号で、
音楽学者L.V.Köchelが1862年に作製したモ
ーツァルトの年代別主題別の作品目録にもとづ
いている。このケッヘルによる作品のカタログ
は、その後アインシュタイン、ゲークリン
ク、ヴァインマン、ジーフェールといった音
楽学者によって改訂版が作られている。J.S.
バッハの作品目録番号は、BWVという略号
で示されるが、これは、音楽学者W. シュミ
ーダーが1966年に作製したバッハの作品目録
（〈Bach-Werke-Verzeichnis〉）にもとづいて
いる。その他有名な作品目録番号としては、
ハイドンのホーボーケン番号（Hbと略記、A.
v.ホーボーケンの1957年の作品目録による）、
C.P.E.バッハのヴォトケンヌ番号（Wgと略
記、A.ヴォトケンヌの1964年の作品目録によ
る）、バーセルのツィンマーマン番号（Zと略
記、F.B.ツィンマーマンの1963年の作品目録
による）などがあげられる。鍵盤音楽の巨匠
D.スカラッティの作品目録番号は例外的に
二つの種類がある。A.ロンゴの作品目録によ
るロンゴ番号（Lと略記）と、R.カークパ
トリックによるカークパトリック番号（Kと略
記）であるが、作品の収録数からいっても後
者の方が今後一般的に用いられるようにな
ると思われる。

サロン音楽 Salonmusik【独】1830年代から
19世紀後半にかけてバリの上流階級のサロ
ンで行なわれた音楽。演奏会場音楽においては、
はなやかな効果や目くらむような名人芸が
追求されていたのに対し、小人数の上流階級
の婦人達を対象にしたサロン音楽において
は、いっそう内的で優雅な雰囲気音楽が理
想とされた。サロン音楽は主にピアノとヴァ

イオリンの独奏という形態で行なわれ、次の
ようないくつかの特徴をもっていた。①変奏
曲・ロンド・ポロネーズなど小形式の愛好。
②変ホ長調・変イ長調・変ニ長調などフラ
ット系の調性が使われる。③《夜の美女（Belle
nuit）》《大円舞曲（Grande Valse）》《サ
ロンの小さな花（Petites fleurs de salon）》な
どフランス語の標題をもつ。このようなサ
ロン音楽は、リスト、シューマン、ショパンの
ピアノ曲に大きな影響を与えた。サロン音楽
の代表作とされているのは、ショパンの《大
円舞曲》作品42変イ長調である。19世紀後半
に入るとサロン音楽の流行は、〈サロン作曲
家〉を生みだす。そして古典の名曲を適当に
編曲したような作品（グノーの《アヴェ・マ
リア》1859）や、安易で感傷的な旋律をもつ
作品（パダチェフスカの《乙女のいのり》18
71）が支配的となり、しだいに〈まがいもの〉
（〈キツネ〉の項参照）の温床となった。

セ

全音音階 whole-tone scale

【英】オクターヴのなかの5つの全音
と2つの半音をふくむ音階を全音階

（diatonic scale）というが、全音音階は、オ
クターヴのなかの6つの全音のみによる音階
で、ハーニー・ハーニー・ハーニー・ハーニー・ハ、あ
るいはハーニー・ハーニー・ハーニー・ハーニー・ハとい
うスケール。19世紀後半から、グリムカ、
スクリャービンなどによって用いられるよう
になった。たとえばドビュッシーの有名なピ
アノ曲《voiles》（《前奏曲集》第1巻第2曲）は
前述の第1型全音音階によって作られている。
半音がまったく欠如しているため、自由
で漂渺（ひょうびょう）とした空間が生みだ
される。なおこの《voiles》というタイトル
は、《帆》と訳されるのが普通であるが、こ
うした全音音階による音響の柔軟な運動とい
う点から見ても、後半に出現する東洋的な5
音音階から見ても、アラビアの女たちが顔に
かける《ヴェール》と訳するのが正しい。

現在のように一枚の板を曲線にたわめる技術が発達していなかったからです。しかし一九世紀に入ってピアノが一般に普及し、ペーサー・ヴェン、シューベルト、ショパン、リストなどの大作曲家がすぐれたピアノ曲を数多く作曲し、演奏する時代になるとピアノ製造技術も目ざましく進歩しました。フレームに鉄が使われるようになったのも一九世紀前半。それにもなつて、木のワクも次第に曲線を加えてつくられるようになってきたのです。

2 国産第一号のG・P

日本で最初にグランドピアノがつくられたのはいつ頃でしょう。またその第一号はいまどこにあるのですか。

日本で国産第一号のグランドピアノがつくられたのは明治三十六年（一九〇三年）、日本楽器の製作によるものでした。これはアップライトがやはり日本楽器によって製作された三年後のことです。このグランドピアノはすでに立派な音色とタッチをもっていたといわれていますが、特に注目すべき点は、かなりの部分に国産の部品が用いられていたことです。これは当時の傑出したピアノ技術者、山葉直吉氏らの努力によるものでした。



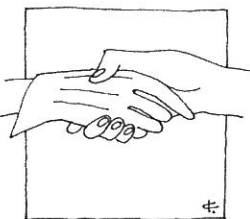
明治37年 昭憲皇太后陛下御買上の山葉ピアノ

残念ながらこの国産グランドピアノ第一号はその後どこに消えたのか行方しれずです。

3 G・Pとアップライト、どこがちがう

アップライトピアノとグランドピアノはどこがどんな風にちがうのでしょうか。

そのちがいはメカニク的な場合と、感覚的の場合と両方ありますね。あるピアノニストはその感覚的なちがいを、「ピアノニストにとってアップライトは手袋をはめて握手



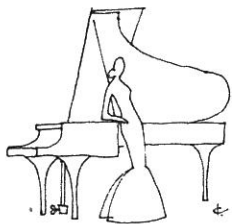
から打弦し、自分の重みで元の位置に戻るグランドピアノのハンマーはずっと敏しうです。ですから正確で早いレベティションはどうしてもグランドの独壇場になります。それからアップライトは大きっぱいという音源がケースに囲まれる形になっているので、オープンに音が響かないのですが、グランド

は響板が空間に浮いている（つまり響板の下側は空いていますし、上側も蓋をあければ空間ができる、というわけです）ので音が直接に、自然な形ででてきますし、ピアノシモからフォルテまで音の強弱の幅もぐんと広いのです。

ペダルもちがいます。グランドの右側のペダル（ダンパーペダル）は、アップライトと機構は同じです。しかし左側のペダルはアップライトではソフトペダルと呼ばれていてハンマーと弦の間隔を変えることによって打弦力を弱めて音をソフトにするのですが、グランドでは左側のペダルを踏むと、アクション全体が横にスライドし、ハンマーの打つ弦の本数を変えたり（一本はずす）、ハンマーのヘッドの部分で弦を打つようにしたりして、エネルギーそのものを減らすだけでなく振動を減らして音を弱め、同時に音色を変えることができます。つまり効果ペダルの役を果たすのです。このペダルはその働きから本来はシフト（移動）ペダルと称されています。またヤマハのコンサートグランド、CF、CSII型では真中にソステナートペダルがついています。これはアップライトの真中のペダルが一般には音を響かせないためのマフラーペダルであるのに対して、押えた鍵盤だけダンパー

4 ああ形はどうして?

グランドピアノってなんといってもカッコーイイ。アタシがあまわりをぐるっと回つて歌をうたつたり、時にはあのかぼんだ所に身を寄せて蓋にヒジなんかついてるところを想像するとソフソフとするのだけれど、いったいどうしてあんな形をしているんですか？



確かにグランドピアノの魅力のひとつは姿の良さですね。この間来日したフランスの若いピアノニスト、アンヌ・ケフェレックさんも「あの形、とっても美しい。しかも美しい形をしているピアノほど音も良いみたい。プロボーシヨの関係かしら」と言っておりまして。実は

5 部品はいくつ?

グランドピアノはだいたいいくつ位の部品からできているのでしょうか。

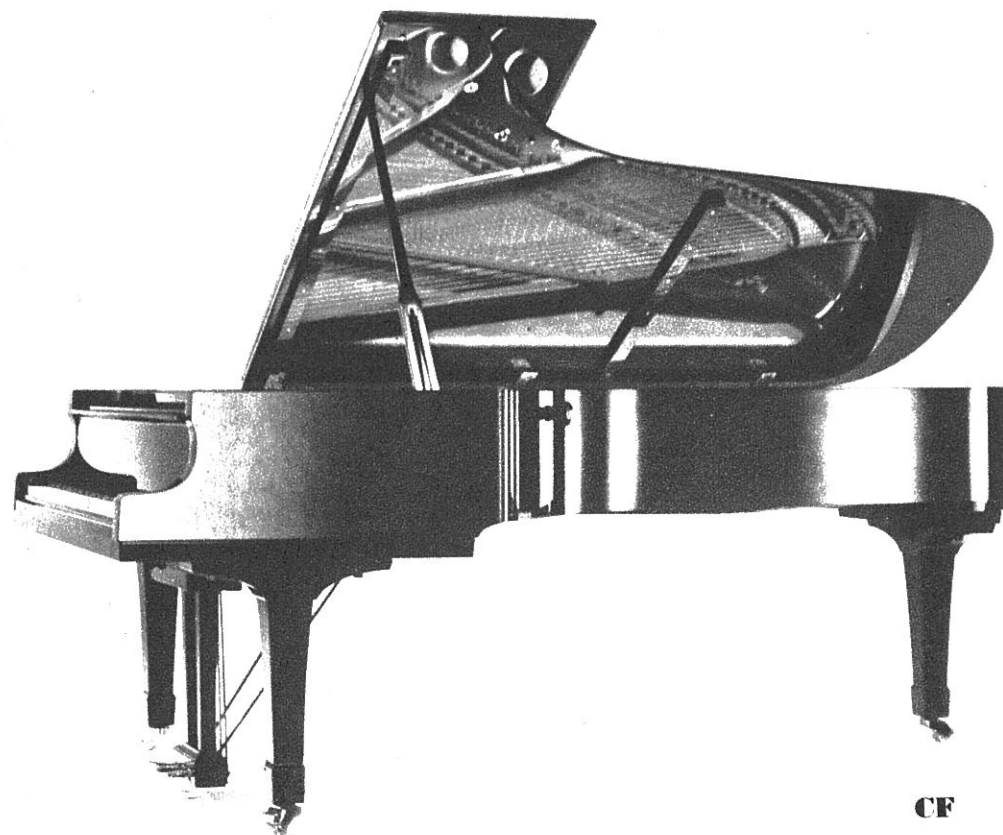
スバリ約八千個の部品が使われています。そのうちピアノの心臓部であるアクション部に約六千個（八八鍵ありますから）、その他の部分に約二千個です。

6

グランドピアノの種類

グランドピアノって、大きさがいろいろあるんですね。演奏会で使われるのがやはり一番大きいのだと思いますが、他にもどれ位のサイズがあるのか数えて下さい。重さも知りたい。

演奏会でピアニストが使うグランドピアノは「コンサートグランド」と呼ばれ、グランドの中でも花形的存在ですが、一般の家庭や学校などではもっと小型のものが使われます。ヤマハの場合を例にとると、コンサートグランドを含めて七機種出ています。



CF

CF

88鍵(7オクターブ)
高さ=103cm・間口=160cm
奥行=275cm・重量=580kg
黒艶出し・象牙鍵盤・3本ペダル(ソステヌート付き)
¥2,900,000

CSII

88鍵(7オクターブ)
高さ=103cm・間口=158cm
奥行=250cm・重量=490kg
黒艶出し・象牙鍵盤・3本ペダル(ソステヌート付き)
¥1,700,000

C7B

88鍵(7オクターブ)
高さ=102cm・間口=154cm
奥行=223cm・重量=400kg
黒艶出し
¥1,200,000

C3B

88鍵(7オクターブ)
高さ=101cm・間口=148cm
奥行=183cm・重量=315kg
ポリエステル黒艶出し
¥900,000

G5E

88鍵(7オクターブ)
高さ=101cm・間口=148cm
奥行=197cm・重量=375kg
黒艶出し
¥1,000,000

G3E

88鍵(7オクターブ)
高さ=101cm・間口=148cm
奥行=183cm・重量=310kg
黒艶出し
¥780,000

G2E

88鍵(7オクターブ)
高さ=101cm・間口=147cm
奥行=170cm・重量=305kg
黒艶出し
¥670,000



G3E

特集②

カリクシュタイン氏
グランドピアノを

語る



ヨセフ・カリクシュタイン氏はイスラエル出身のピアニスト。アメリカのジュリアード音楽院でピアノを学び、ニューヨークのレーベントリット・コンクールで一位を獲得、現在アメリカ、ヨーロッパで活躍中です。今回初来日でしたが、シューマンやショパンなどロマン派の作品を中心にリサイタルを開きました。そのカリクシュタイン氏にグランドピアノについて語ってもらいました。

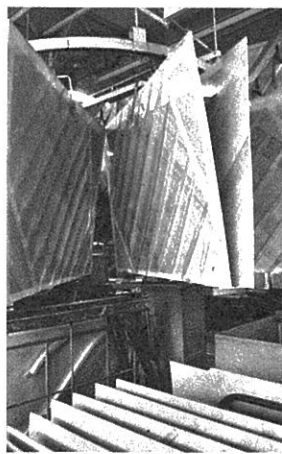
「アップライトとグランドで最も大きなちがいは音の色彩感でしょう。グランドの方が音が豊かですし、フォルテとピアノの差もずっと大きい。アップライトが四色の絵具だとするとグランドは五十色ぐらいあるみたい。音楽の意味を伝えられるのはグランドですね。これは決してアップライトで弾いても意味がないということではありません。もちろん初歩の間はアップライトで充分だし、私自身も十五才位まではアップライトで勉強していました。四、五才の子供にグランドというのは逆に適当ではないと思います。でも本格的にピアノをやるとしたら、いつかはグランドに移る必要があると思います。自分で音色をどんどん開拓し、発展させるためにもね。私もずっとアップライトで弾いていたら、現在のようには弾けなかったでしょう。音色のニュアンスや豊かさ、というのは実際に自分で聴いて耳に慣れないとわかりませんし、想像力も働かせようがないでしょう。たとえば目の見えない人には色がどんなものかわからないので、想像もできないようにね」。

7

G・Pの製造日数

グランドピアノは一台つくるのにどれくらいの日数がかかりますか？

木を選んで、貯木池に貯蔵して、製材してそれを長い間天然乾燥させ、更に人工乾燥させて……というところから言いますと途方もなく長い年月になりますが、乾燥を終えて組立てだけの日数をとるとすれば小型のグランドで約百日、コンサートグランドで約半年かかります。



8

なぜ八八鍵か？

ピアノはだいたい八八鍵ですが、これにはわけがあるのですか？

一言でいうと、それ以上の鍵を使った曲がない、ということです。またよくしたもので人間の耳に聴こえる音の範囲はふつう約二〇



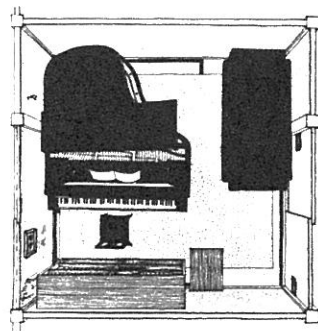
ヘルツから最高二万ヘルツですが、ピアノの八八鍵の音も最低音が二・五ヘルツ、最高音が四一八六ヘルツになっていて、音としてはその四倍音まできこえますから、大体可聴範囲に一致するのです。作曲家が自分の頭の中にいるイメージから曲をつくる場合も、この範囲が大体「音楽的な音」として感ずる限界であろう、ということとでそれ以上の音を使つた曲がないでしょう。

以前ベーゼンドルファーが九二鍵のピアノをつくりました（下の方に四つ鍵が余分についている）が、これもふだんはこの四つの鍵を弾かないように蓋がついています。そのオマケの鍵を押しても、音というより低いという声のような感じだとか……。

9

四畳半にG・Pは置けるか

ウチは3DKのマンション。六畳と八畳と四畳半なのですが、二人暮らしなので、出来れば四畳半の部屋にピアノ、しかもグランドを入れたいナと考えています。ムリでしょうか。



お店やコンサート会場で見るとグランドピアノはいかにも大きくみえますが、実際にはアップライトとくらべてそれほどスペースをとるものではありません。例えばヤマハグランドピアノG2E型は、ヤマハアップライトピアノU3H型よりも奥行きがたった一メートル長いだけです。ですからアップライトピアノが置けるスペースがあれば、殆んどの場合置くことができるのです。極端にいうと三畳の部屋でもグランドは置けます。スペース的にはOKですからご安心ください。

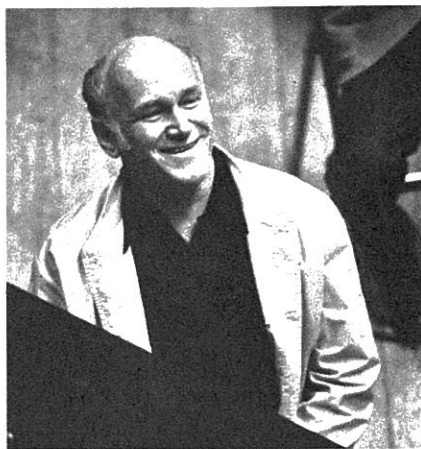
ただ、マンションの場合、両隣りと上下のご家庭への音の配慮が必要です。なるべくお隣りと直接つながっている壁側にピアノを置くことはさけるようにしましょう。ご参考までに、和室四畳半にG2Eを置いた場合の例を図にしてみました。

10

ヤマハCFを弾くピアニスト

外国のピアニストでヤマハのコンサートグランドピアノCFを弾いた人は今までに何人くらいいるのでしょうか。

数えきれません。ヤマハのコンサートグランドがCFと命名されたのは今から九年前（一九六七年）ですが、そのCFの披露演奏を行なったウィルヘルム・ケンプを筆頭に、現在世界の一線で活躍する殆どのピアニストがCFをステージで弾いています。少し名前をあげるとスピヤトスラフ・リヒテル、アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ、エミール・ギレリス、ウラディーミル・アシュケ



スピヤトスラフ・リヒテル氏

11

ピアノの寿命

中古のグランドピアノを友人から貰おうと思えます。今から五年前位につくられたものだそうです。ピアノにも寿命はあるのでしょうか？ 大体何年くらいもつものでしょうか。

ピアノの寿命……むずかしい質問ですね。ピアノには人間のように平均寿命がないのです。例えば自動車は古くなるとどう修理しても動かなくなってしまう場合がありますが、ピアノは修理をすればいくらでも使うことができます。しかしもちろん性能の面からは往年の能力を何十年も保つということはできません。例えば野球選手に引退の時期があるのと同じですね。その性能の頂点を何年くらい保つことができるか、ということになると、これもやはり平均的にはいいにくいのです。専門家が弾くか、アマチュアが弾くか、とい

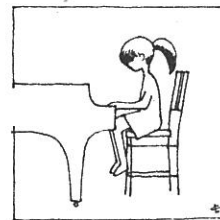
12

グランドは何才くらいから

うことや使用頻度によってずいぶん分ちがうからです。A・Bミケランジェリは「ピアノは二年しかもたない」といつていたそうですが、実際には練習用に同じピアノをそれより長く愛用しています。ですからピアノの寿命は年数では決められない、といえましょう。くり返しになりますが酷使したものと、そうでないものと、条件によって差が出てくるからです。中古のピアノの性能の判断は、専門家に相談することが一番でしょう。中古でもやはり信用のあるお店から手に入れられれば、まず間違いはありません。

四つ頃からピアノを習っている娘（十才）が先生のところのグランドピアノに夢中で、「ヤッパシ、音がちがう」などと一人前のことを申します。できればこんど買い換えるときにはグランドを、と思つていますがまだ小さい気もします。グランドに移るのは子供の場合いくつくらい、またはどんな曲（今はチエルニ三十番とソナチネをやっています）あたりからが適当なのでしょうか。

お子さまがアップライトとグランドの「音のちがひ」に気づかれているのは、耳の良い証



拠でしょう。たしかに指の先に感じる感覚、出てくる音の質、色、幅などグランドはやはり「グランド」です。そのちがいは音量にある、と思われがちですが、実はもっと大切な「音楽表現のゆたかさ」にあるのです。

あるていどレッスンが進み、お子さまの指もすっかりしてきたら、将来専門家をめざす方にかぎらず、ピアノの楽しさを身につけるためにグランドをおすすめしたいと思います。年令的には中学生位から、ということもいわれていますが、「小学校四、五年ならもう充分弾きこなすことができる」(弘中孝氏)ということですし、ピアノを始めてから四、五年ぐらいから、というのが適当でしょうか。曲の方からいえば(年令よりもこの方が重要かもしれない)曲想や、一曲のまとまった表現が要求される作品あたりに入った頃からグランドを、と考えることが出来ると思います。ですから質問のお子さまの場合、もうグランドになさって充分だじょうぶです。

13

G・Pは音が大きい?

現在アップライトピアノで練習している中学三年生ですが、こんどはどうしてもグランドが欲しい、と親たちに「ネているところ」です。「グランドだと音が大きくてお隣りに悪いんじゃないの」と言われます。アップライトに比べて音量はどれ位ちがうんですか。

アップライトもグランドも外にもれる音は実のところ、そんなに違いません。音量をデシベルで測ってみると、確かに低音では差がありますが、高音はそれほど差がないのです。人によつては低音の響きを不快に感ずるといふ人もいますが、たいていは高音のキンキンした音が耳につく、という場合が多いようですから、「騒音」の問題を気になさるのでしたらアップライトもグランドもさほど変りはない、といえるでしょう。

ただし、アップライトではマフラー・ペダルによつて音を弱めて練習することができま

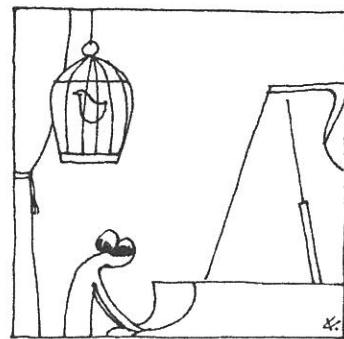


すが、グランドにはこのペダルがありません。そのことを頭に入れて、練習時間に心を配ることが必要になると思います。

14

G・Pはぜいたく品ではない

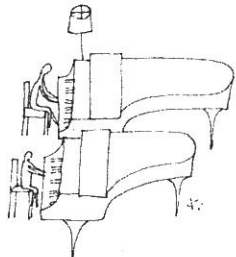
グランドピアノを欲しいとは思いますが、「高価なもの」というイメージがあり、アマチュアとしてはぜいたく品ではないかと考えてしまっています。



本当に音楽がお好きなら、アマチュアでもグランドを持つことは決してぜいたくではありません。楽器の能力はその楽器がどれだけ自分の出した音を表現してくれるかということだと思います。ピアノシモの本当に良い音はやはりグランドでなくては出せません。フォルテもそうです。ピアノを弾くことが楽しくて、音楽を愛している人でしたら、曲のこまかなニュアンスや表情の変化をつけたい

15

レッスンはグランドで



小さなピアノ教室を持つている者です。よく先輩の先生に「レッスンにはグランドで」といわれますが、

なんととってもグランドピアノは表現に幅があり、音量が豊かで、タッチの微妙な変化を樂しめます。生徒さんに教える場合も、将来のことを考えると、グランドピアノに慣れ、グランドの感覚を身につけさせる必要があるでしょう。ピアノを音

特集③

調律技術者にきく

ピアノえらびのこづかい

と望むのは当然のことでしょう。そういうところから考えれば、グランドピアノはぜいたく品ではありません。また一台、一台をつくりあげるためにこれほど熱心な研究がなされ、手間と時間がかけられているものも少ないでしょう。一度工場に行つてごらんになれば、決して「高いもの」ではないことがおわかりになると思います。むしろ車とくらべれば格段に安い品物であることを実感なさるでしょう。それにアップライトをお持ちでしたら、グランドにかえる時下取りをしてくれますし、分割払いのローン・システムをご利用になれば比較的らくに手に入れることができます。ちなみに、ヤマハのグランドピアノの値段については、14ページをご参照ください。

ピアノえらびはなかなかむずかしいもの。どんなところに注意してピアノをえらんのだよいか、東京・日本楽器の方にきいてみました。

——ピアノをえらぶにあたって、基本的なことから、教えてください。

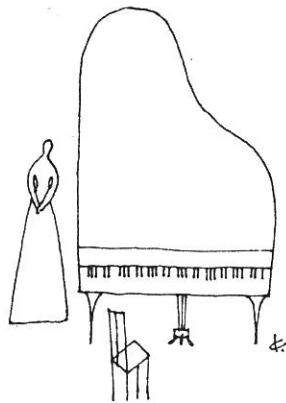
A 理想をいえば大きければ大きいピアノの方が良いですね。弦の長さが長ければ長いほ

樂的に弾く、ということとは口で説明してもわからない感覚的な要素が多く、これはやはり指や耳、そして身体全体で感じとって行くしかないと言えましょう。その微妙なところを伝え、指導するにはグランドピアノが大切な助手となるのです。子どもたちに「音楽するよろこび」を体得させるために、グランドピアノの果たす役割は大きいものです。

譜面台の高さやペダルの位置もグランドとアップライトでは違っていますし、いずれ外部のステージで弾くときに備えることからいっても、グランドでレッスンするのが望ましいでしょう。スペースに余裕があれば、先生と生徒さんに一台ずつグランドを、というのが理想的です。

ど低音の分離が良く、微妙な表現が可能になりますし、響板も広いほど音の響きは深くよくなります。また鍵盤自身の奥行きが大きいものほど、鍵盤はちょうど「こ」のようになつていきますから、例えば長いシーソーと短いシーソーをくらべるようなもので、長い方が弾いたとき表現がつけやすいものです。しかし、そうはいってもピアノを置く部屋

のスペースを考えなくてはなりません。グランドでもG2Eの場合は四畳半でも大丈夫ですがG5Eになると八畳くらいはゆとりが欲しい、ということになります。ピアノを置く部屋の大きさ、洋間か和室か、反響が良い部屋か音が響かない部屋か、ということをおまかせじめ頭に入れてからピアノを選ばれた方が良いでしょう。お求めになる前に、部屋の大きさと様子、間取り、家具の位置などを具体的に



的にお話になって、売場の専門家に相談することですね。

——ピアノえらびの具体的なポイントは何？

A ピアノの音色、音量、タッチをみるわけですが、これはもちろん弾く人の好みが大きなき決め手になります。音色やタッチはあとから調整、整音で好みに合わせて直すことができますから、どんな音色やタッチを望まれるかど

んどんおっしゃって下さるといいですね。

学生の方では、いきなりピアノの前に座ってバラバラ曲を弾き始めるケースが多いのですけれども、ピアノの性能をみるには、はじめにスケールでもピアノシモでさつと弾いて、八八鍵の音のつながりが均一かどうか、バランスはどうかを調べる方がわかりやすいと思います。それからピアノシモからフォルテシモまでのダイナミック・レンジ（音の強弱の幅）を確かめることですね。

タッチのことですが、「重いピアノで練習すれば、他のどんなピアノも弾けるようになるんじゃないか」というわけで、わりと重めのタッチを希望される方が多いようです。七、八年前まではとくにそういう傾向が強くて、鍵に鉛などをつけて重くして欲しい、という方が多く極端な場合には何グラム、と重さまで指定してくる方がいました。タッチというのはやはり感覚的な要求ですから、鉛などという物理的なものだけでそれを解決するのは本来あまり望ましくないことだと思います。事実、鉛をつめて重くしたあと、「今まで四、五時間練習していても平気だったのに、こんどは疲れてそんなに出来なくなった。また鉛を抜いて下さい」と言われたこともありました。鉛は抜けることは抜けますが、ピアノ全

体のバランスはくずれずれるし、結局は良くありません。鍵の重さは、ヤマハの場合世界のピアノニストに最も好まれている重さでつくられています。これを最初からあまり人工的に変えたりしないで、自分に合ったタッチでアクションをきちんと調整してもらって、それでもどうしても軽すぎるという場合に次の手段を考える、という風になさった方が良いでしょう。

音がよく鳴る、鳴らないというのは、瞬間的な音の大きさよりも「音の伸び」の差でしょう。特にこれは和音を弾いてみるとはっきりわかります。ですから、何台もあるピアノの中から、音の伸びの良いもの、ピアノシモのつづが八八鍵でそろっているもの、を選んでいただくのがポイントでしょう。

——ピアノで当り、はずれはあるでしょうか。A それはヤマハの場合まずありません。我田引水になりますが、信用のあるメーカーのものを、信用のあるお店で買っただければまちがいはないと思います。信用のあるお店で、と言いましたのは、ピアノにはアフター・サービスが欠かせないからです。調律調整のしつかりした技術をもった人にあとあとまで頼むことができる、ということは購入する際の大切なポイントになります。

わたしの レッスン法

“日本のピアノで日本の ピアニストに” 小森谷泉君



第四回の音楽コンクールのピアノ部門で第一位を獲得した小森谷泉君は、現在桐朋学園大学の三年生です。茨城県の古い城下町、古河の実家にお訪ねしてみました。二階の応接間にはヤマハのコンサートグランドCFが小森谷君の練習用に置いてあります。広い部屋もCFのおかげで狭く感じられるほどです。やっぱりCFは大きいなア。

ピアニストの経歴には、よく「……コンクール一位」とか「優勝」とかいふ文字がいともあつさりと使われているが、実はこの一行が何と大変な重さを背負っていることだろうか。小森谷君の場合も、「初めて受けて一回で一位になってしまった幸運児」とも言われるが、その「幸運」は文字通り血の滲むような長年の努力にずっしりと裏打ちされているのだ。それも当人の泉君だけではなく、ご両親や先生方までその重みを担ってきたのである。

お父様が声楽家で、お母様がピアニスト、お二人で「小森谷音楽院」を古河で開いているという音楽的に恵まれた環境に育った泉君は、お母様について三才の頃からピアノを始めたという。お母様は「他のお子さんたちを見るよりずっと厳しく教えました。音楽家のところまで育ったのだからうまくなくてはおか

▲月曜日のスケジュール

7	目が覚める
	コーヒーとパンで朝食
8	学校へ
9	
10	授業(講義)
11	
12	昼食
1	
2	授業(講義)
3	
4	
5	友だちと合奏したり遊んだり...
6	帰宅後すぐ夕食のしたく(料理は得意、レパートリーは100種ほどで、酢豚、ポルチなどつくる。弟さんの分まで面倒みる名コック)
7	
8	ピアノをさらう
9	
10	レコード聴いたり、お酒飲んだり...
11	
12	
1	おやすみなさい

そのコンクールが終ってからはまた俄然慌しくなった。十月二八日に本選が終り、優勝と決ってから二ヵ月弱の間に六、七回全国各地の演奏会に引っぱり出された。大体毎週一回リサイタルを開いていた計算になる。そのためふだんのスケジュールはメチャメチャ。大阪でリサイタルを開き、翌日新幹線で東京へ戻り、そのまま学校へすべり込み、ということもあった。「そんな風に生活は大分変りましたが、僕自身は変わりません」と泉君は淡々と述べている。「ポリーニって、ショパン・コンクールで優勝したあと、しばらく引つ込んでしまっただけで、それからまた出て来たんですよ。頭いいナと思う。コンクールで優勝しても、そのあとすぐ演奏活動に入ったりすると、自分の勉強は出来ないし、曲はたまらな

いし、あんまり良くないと思う。僕はこれからもずっとどんなレパートリーを増やさないとならないから。『コンクール一位』の肩書きに振り回されたくない、かなりサメた賢実な考え方をしているようだ。一時夢中になっていたボーリングも「指」に対する気使いからやめてしまった。得意の料理に腕を振るときも、包丁を持つときは細心の注意をして指にあたらないようにする。コンクールの前には好きな自動車の運転も先生から禁止令がでた。話をきいていると、凡人に生れてヨカッタ」などと自分勝手な感想も湧いて来そうだが、小森谷君自身にはまるで「重圧感に耐えてきた」という風情はなく、気持のよいおらかさと余裕が感じられる。もちろんこれからコンサート・ピアニスト

を目指して更に道を進んで行くことになるわけである。「正直いって、それは覚悟のいることです。全くひとりの楽器です。ステージに立つとね、ある一人の顔がバツと眼に入ります。その一人に向って全力で弾くようにします。男です、ね、ピアノは一生かかってやりとげる目的でもあるし一面では食べるための手段にもなるでしょう。ピアニストにはいろんな要素が要求されると思う。『演技』も必要じゃないかな。会場で聴いている人は耳だけじゃなく目もありますからね。下手そうに弾くと下手に聴こえたりしちゃうんじゃないかしら。」

小森谷君は「ピアニスト」というゴールを目標にした長い長い距離のマラソンで、いまひとつの門をくぐりぬけたところである。

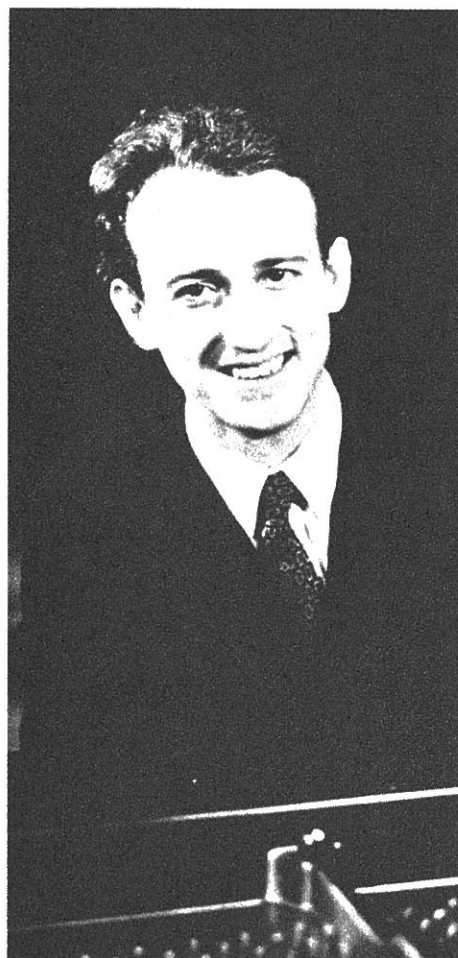
しい、と思われてしましますし」という。泉君も「小さい頃は他の子たちが遊んでるとき、自分だけピアノ弾かなくてはならないのが嫌だった」こともあるというが、「小学校五、六年でソナチネなどをやり始めた頃からピアノが面白くなってきた」そうである。桐朋学園の高校に行くようになった時から両親のもとを離れて東京で下宿生活を始めたが、その当時は朝の五時半に校門の開くのを待って、ピアノ室にかけつけて授業の始まるまで殆んど毎日練習したという。下宿先では夜遅くまでピアノが弾けなかったからである。

この桐朋の高校を卒業するとき、お父様から素晴らしいプレゼントがあった。卒業試験で一位になったごほうびにお父様言うところの「日本一のピアノ」ヤマハのコンサートグランドピアノCFを買ってもらったのである。浜松の日本楽器本社にまで選定に行き、四台のCFの中から「弾き易さと音色」の点から一台を選び、「練習に良いようにタッチを重めに」してもらったという。コンサートグランド」を使って家で練習できる、などというのは、「アップライトかグランドか」を迷う位の多くの一般の人たちにとってはまさに夢のような話であるが、これは私の道楽かも知れませんし、小さなグランドでも練習には間に

合うとも考えられますが、一時間でも苦痛なく勉強できるように、と思つて買つてやりました。楽器にホレ込んで一生懸命練習する、ということもあるでしょう」とお父様はおつしやる。たしかにCFだと表現が大きくなる。それにふだんからコンサートグランドに慣れていると会場にいった時もちがう」と泉君もいう。しかしフルコンを持っているというのは仲間うちでも一人だけ、というからやはり恵まれていると言えるだろう。ただしこのCFは古河の実家の方に置いてあるので、学校の休みとか、特別の場合にだけこれで練習、ということになる。時にはバ

イオリンをやっている弟さん、音楽専門の父上と合わせたりしてホーム・コンサートも楽しむ。『離れていると親も淋しいですからね、このピアノがあればちよくちよくこちらへ帰って来るんじゃないかと、そういうナライもあるんですよ』とお父様は笑う。

ふだんは東京・上北沢のマンションでG3を使って練習をする。これは高校のときから使っているものだが、今回の音楽コンクールのための猛烈な練習でだいぶガタガタになってしまった。「爽快な重量感」と賞められた小森谷君の文字通り力強いタッチに毎日長時間応えるためには、ピアノも大変である。



マウリツィオ・ポリーニ

ピアノ・ピアニスト

CF

評判記

「たとえば、
ピアノは…」

ピアノの性能や性格を言葉で表現するのは音楽を言葉で言い表わすのと同じでなかなか難しいものです。長い間ピアニストにピアノの印象をインタビュースしていると、さまざまな比喩がとびだします。ピアニストひとりひとりの音楽観や人柄がピアノに対する意見にもあらわれてくるようです。ピアノを自動車にたとえる人(アンドレ・ワッツ「七〇マイル以上だすときに余裕のある車の方が良いように、フォルテシモを出してもそれ以上の可能性を感じさせてくれるピアノが良い」、フランス・クリダ「私



クリストフ・エッセンバッハ (日比谷公会堂)

は出足が良くて反応の良い車が好きなんですが、ピアノも同じ。すぐ弾き手に反応してくれるのが好きですね。そういえばあのベネデッティ・ミケランジェリもスポーツカーを乗り廻すスピード狂とか。これは関係ないかな?、女性に喩える人(アダム・ハラシェヴィツ「良いピアノというのはことはでは表現できない『なにか』を持っています。何台ピアノが並んでいても指で触れてみれば、これだ、というのはすぐわかります。女の人でも理想の女性を言葉で言うのは難しいけれど、見たり話したりすればすぐピンと来るようにね」、船に喩える人(アンヌ・ケフェレック「ピアノって実に美しい楽器ですね。それも美しい形をしたピアノほど音も良いみたい。プロボーションの関係でしょうか。船と同じね。船も機能的に出来ているんだけど本当に姿がいいでしょう。手工芸品的なところがあつて…」)ときまぎれです。

クリストフ・エッセンバッハ氏は一九七二

年、七四年の来日でヤマハ・CFを何回かステージで使い、そのまろやかで美しい音色にすっかり魅せられたピアニストのひとりです。エッセンバッハ氏はCFを馬に喩えました。

「大変素晴らしいピアノで、これで弾けたことはとても幸せでした。音が美しくアクションが平均していて、生きています。ピアノが自分の思う通りに鳴ってくれるという感じで、まるで優秀な馬に乗っている時のようでした。弾き手に敏感に反応してくれてね。歌う特質を持っているし、ピアノ、ピアノシモがとてきれいに出来ます。私が好きなピアノはこの歌う特質を持っていて、音が長く響いて、しかもそれが広がって行くようなものです。ヤマハにはその点とても満足しました」

もうひとり、ピアノを馬に喩えて非常になくみに表現した人がいます。ウイーンのピアニスト、パウル・バドゥラースコダ氏です。

「良いピアノを馬に喩えてみましょうか。馬によっては素直で何でも良く言うことをきいて、性質の良いのがいますね。かと思えば、性質が難しく、馴れにくくて、一生懸命努力しないと乗りこなせないのがある。でもレースで強いのはどちらかと言うと後者の馬なんです。レース、つまりステージでは弾き易いものよりはひどくくせがあつても秘めた余力が出てくるようなピアノが良い、ということになるでしょう。最後の最後まで力を加えていってもそれに応えられない、というピアノですね。ヤマハCFにはその可能性が充分あると思います。美しくクリアな音を持っていますね。そう、日本人の最も良い性格を示しているピアノ、という気がします。ヨーロッパのピアノには、時として神経質な馬のようでいつもお医者さんがそばについていないとだめなのもあります…」

「ピアノは生きもの」という感じをびつたりと言いついて言葉のような気がします。

音楽って結局個人的な環境の中でしか、自分には判断できないものだろう。例えば、僕は今スクリーバーの3番を聴きながらこれを書いてる訳なんだけれども、今の自分にはこの曲がとっても似合うように思っている。僕は今恋をしているのだけれども、自分の部屋で一人で酒を飲んでいる時など、ふっとまらなく寂しくなったりして、スクリーバーの3番とかシューマンの作品など聴いて、センチになってしまうのだ。こんな時は、スクリーバーやシューマンがその曲を書いた状況なんて全く僕には関係がなくなってしまう。悪い言い方をすれば、自分の今の気持ちのバックグラウンドミュージックになっちゃったのだけれども、僕はそういった時はそれで良いと思ってる。そういった状態の時って音の一つ一つを明確に聴いている訳では全然ないのだけれども、聴いた後なぜかその音が心にずっと残っていて、全く正常の時に聴いた時と違った感じ方をしてしまうのだ。そしてそんな時にはよい自分に優しく、つまり最上の音楽を聴こうと思うわけなんだけれども、スクリーバーの場合にはもうホロウィッツが極めつきなんじゃないかと思ってる。もつともスクリーバーを弾いているピアノ

最高が2万円の入場料などという具体的な話まで飛びだしたりして、やっぱりそれだけ払っても聴きに行こうという決意までしたのだけれども、どうもやっぱり日本には来ないらしい。そのかわり、日本からJAL・PAC Kだかなんだか知らないけれど、アメリカでホロウィッツを聴くツアーが企画されたらしくて僕の友人の一人もそのツアーに参加するなどと言っていた。もちろん僕もホロウィッツを死ぬ程生で聴きたいし、それにこの頃彼はスクリーバーをよく弾くとの事で、例えばショパンのマズルカとスクリーバーの9・10番を弾くといった具体的なプログラムがすでに僕に分っていたら、借金をしても聴きに行こうかなって気にもなるのだけれども、僕はしがないジャズマンで、金も自由にならないし、信用などさらに無いといえ、借金などは、もつての他の外で、結局ホロウィッツの生演奏はどうも一生聴く事ができないのではないかとも思ったりする。だからやけになつて、RCAから発売されているホロウィッツ全集を買おうかなとも思っているのだが、あれだつて一巻、二巻合わせれば、4万円位する苦で、どうも今の僕にはどうにもならない金額だ。

より愛をこめて

④

酒、ホロウィッツ ツ、スクリーバー

翠川敬基

(ジャズ・ベージスト)



写真提供・CBS ソニー

ニストってそれ程多く僕は知らないのだけれども、でも何たってスクリーバーはホロウィッツと僕は思っている。しかも後期の方のソナタのあのエキセントリックさはどうだろう。10番のソナタのトリルを聴くたびに、僕は自分の感情が同じ様に波打つのを感ぜてしまうのだ。もちろんホロウィッツのスクリーバーだけが好きな訳ではない。例えばショパンのマズルカ、あの彼の左手のリズムはいい。どうなっているのだろうね。彼の音は決して優しい音では無いと思ってるのだけれども、その音楽の包容力は本当に凄いのだ。彼は今年の三月には来日するという噂がたつて、本誌の編集長などと話をすると、

どうも最初の書き出しは恋の悩みで始まったのに、しまいには、金の話になったりして、全然ロマンティックじゃなくなっちゃったけれど、今の日本では、そんな気分を味わうのにも金が必要で、僕みたいな、よく言えば自由人、本当のところは殺濱といった人間にとってはずいぶん暮しにくい世の中であるようだ。それが証拠には、子供にピアノを習わせる親の動機といったものは、隣近所に對する見栄とか今の内に投資をしとけば、後で倍になって返ってくるといった思惑で占められている部分が非常に多いんじゃないかなと思うのだ。他は自分の家が資産家であるとかさ。これは僕の偏見だけではないだろう。まあその話はこれ位にして、ホロウィッツの方へ話を戻すけれど、結局夢想的な時も、現実的な時も、ホロウィッツはいいなあというのが今回の結論になりそう。そして最初の書き出しの雰囲気で一語付け足すとすれば、僕は今、夢想的な気持ちでホロウィッツを聴いている事になるだろう。そして最後にいつも同じ事を言ってしまうのだけれども、やっぱりその時には酒がとても似つかわしいと思ったりするのだが、僕ってひよつとしたらアル中ではないのだろうか。

音への心づかい ◆ マンションずまいの防音の工夫

ピアノは楽しい。でもご近所へもれる音にも充分心を配らねばなりません。特にマンションなど、お隣りや上下のご家庭と直接つながっている建築の場合にはその配慮が欠かせません。今回は、東京の東砂町のマンションにお住まいで比較的小さい費用で遮音効果をあげた田口さんのお宅の例をご紹介します。

田口さん一家はこのマンションが建つと同時に去年の夏、浦和から引越してきました。浦和に住んでいた頃から長女の麻美子ちゃん（七才）がピアノを習いはじめ、今やもうレッスン二年目。「エリーゼのために」やハイドンのソナタを上手に弾きこなします。奥様も音楽は「一日きいていてもいい」くらいのファン。ところがこのマンションに越してきてから、困ったことがおきました。左隣りのご家庭から「ピアノの音が耳について……」という苦情がきてしまったのです。これはショックでした。「毎日顔を合わせる方だし、こういう所に住むには、ご近所の方たちと気持ちよく接しられることが大切だし、これはなんとかなくては」と早速専門家に相談。

その結果、三つの方法をとることにしました。まず、お隣りと直接つながっている壁ぎわに置いてあったピアノを、畳の部屋の内壁に移すことにしました。床が板ばりの部屋か

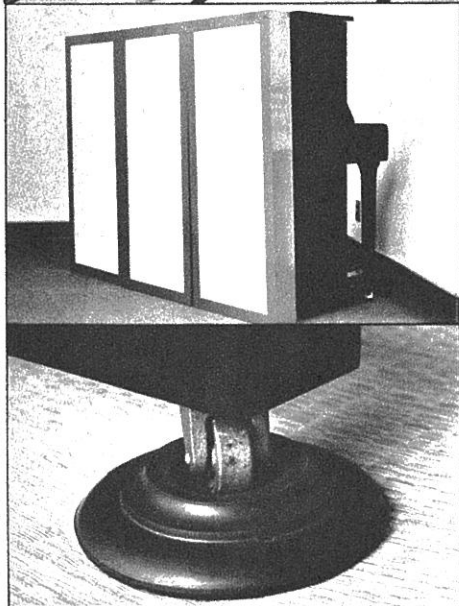
奥の方が以前ピアノを置いていたへや



ら畳の部屋に移動すると、吸音効果があがるということでした。第二の方法として、ピアノの裏側にピアノ・テックスを取り付け、三番目にピアノの四つの足の下に防振ゴムのインシュレーターを置き、この二つの方法で遮音効果をはかりました。これにかかった費用は、ピアノ・テックスが三万四千円、インシュレーターが一セットで九千円、これらの取り付けならびにピアノ移動にかかった費用とあわせて五万一千円でした。取り付けはごくかんたんでした。その効果はどうだったでしょうか。

これらの処置をしてみると、以前は部屋に反響していたピアノの音が確かにぐっと落着

きました。お隣りの方も「前よりずっと音がきこえなくなった」といつてくれました。はつきりと効果があつたのです。この様に具体的ななたちで田口さんのお宅へ示した誠意が通じたことも大きいでしょう。「こちらとしてはできるだけことはしたいと思っています。あと、窓のところにサッシをとりつけるとさらに効果がある、とききましたので、もう少ししたらそれもやってみるつもりです」とのこと。防音や遮音の問題ではご近所と気持ちの上でのまざつて無くして行くことがひとつのポイントです。田口さんの場合は、むずかしい環境で工夫をこらし、その点を解決して行つた好例といえるでしょう。



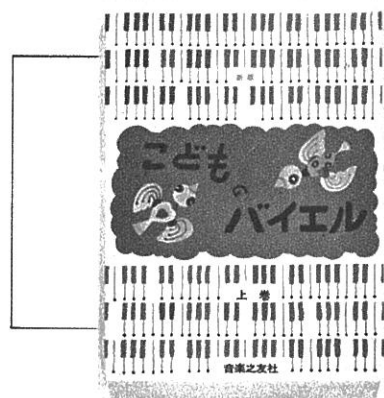
ピアノ・テックス 防振ゴム・インシュレーター

楽譜こぼれ話

バイエルは追放か

ピアノ教則本の著者として誰でも知っているフルディナンド・バイエル（一八〇三—一八六三）とは一体どんな人だろうか。早速人名辞典で調べてみた。グローブ、リーマン、MG、ペーカーなど各国の著名な辞典をいくらかしらしても見当らない。やっとF・J・フェティスと云う人が編集した「音楽家事典」に「一〇行ばかりF.BEYERの項目を発見した。この事典は一八七三年の発行つまりバイエルの死一〇年後の記事だから彼に対する当時の評価がうかがえるわけである。

「現今も日々見られる例のダンス、オペラの一節から、アイデアに乏しい価値のないピアノ曲を盛んに製造する作曲家の一人。彼個人に



ン河畔の町に住んでいる模様。」
 実にユニークな紹介ではないか。記事中バイエル氏の「作品」は原文ではProduction II製品と云う皮肉な言い廻しで述べられている。現在シュート社やジムロック社のカタログには一切見当らないし、手持の最も古い一九三五年（四二年前）のカタログも同様である。教則本のみについては右の二社及びベータース版など最新のカatalogに含まれてはいる。しかし殆ど使われていないようである。外国の音楽家に質問してもバイエルの名は知らない。一方欧米と比較して我が国では現在もバイ

エルは花ざかりである。その原因はなぜだろうか。明治の半ば頃から使われている。他に適当な教本がない。先生方がその長所を生かして普及させた。などではないかと思われるが決定的な理由はわからない。一〇年前位ある記事でこの問題を取上げ、バイエル一辺倒について「バイエル追放」の意見が出た処、猛烈な反響を受けた事があつた。とにかく最近までは売れに売れて日本の各出版社にとってはドル箱であつた。

さて、現在国内では一体何種類のバイエルが出版されているだろうか。先ず普通の大きさの楽譜、即ち標準バイエルは約九〇頁で定価はおおよそ三五〇円である。これが七種類ある。次に上下二冊に分れている「子供のバイエル」は各巻一三〇—一六〇頁で各六〇〇円前後、実に一〇種類に及んでいる。当然過当競争にならざるを得ない。カラー表紙・ビニールカバー付・本文四色刷もある楽譜は原価は上る一方だが定価は余り値上げ出来ない。事情一変、かつてのドル箱が逆にお荷物になって来た。再版は取止めて絶版にする出版社まで現れた。バイエル追放の意見が出なくても欧米並にピアノ教則本の多様化にもよるが、バイエル漸減が起りつつある昨今である。

（日本楽器銀座店・高橋淳）

調 整



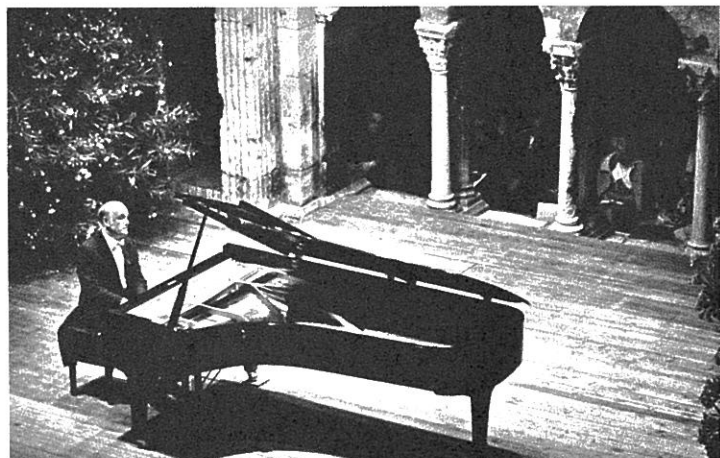
サントロペでの調律

タッチや音は調整できる

照明に浮かびあがる舞台の上の一台のピアノ。登場するピアノリスト、湧きおこる拍手。緊張した空気の中で、聴衆の他にもう一人、舞台の袖で演奏にじっと耳を澄ます人がいる。

この日、リヒテルのプログラムは、シューベルトの「さすらい人の幻想曲」とベートーヴェンのソナタだった。リヒテルのためにピアノの調整をするのは初めてだった調律技術者のM氏は、彼の好みのタッチや好みの音を知らなかった。リヒテルの体格や演奏する時の姿勢、椅子の高さ、椅子とピアノの間隔などからいろいろ想像した末、結局、調整としては最も基本的なオールマイティタイプに仕上げておいたのだった。

大喝采をあげた演奏の後、M技師は、リヒテルにピアノの具合をたずねてみた。「とても良かったけれど、少しやさし過ぎたようです。やさし過ぎるというのは、弾くのが楽だということだ。しかし、楽だというのは必ずしもいいことではない。もっと粘って何かやろうと思ったとき、物足りないということでもある。——M技師は「やさし過ぎた」という一言を、アクションの具体的な一つ一つの調整に翻訳して、リヒテルのイメージ通り鳴



アルル音楽祭(S・リヒテル)

るピアノに変えてみようと思った。そこで、平均一〇ミリの鍵盤の深さを、紙一枚分くらいの一・二ミリ深くした。すると、打弦距離が通常の四七〜八ミリからおよそ一ミリ長くなり、ハンマーの運動にはその分加速度がつくのである。目で見てはわからないごくわずかな調整ではあるが、とにかく

く前よりダイナミックな表現ができるようになったはずだった。

二度目の演奏会の日、M技師は自分のしたことの結果にじっと耳を傾け、努力が無駄でなかったことを知った。演奏を終えたりヒテルは、目を輝かせて彼のところへやって来てこう言ったのである。「これだ、この音だ。」

演奏会前のピアノの調整には、少なくとも半日はかかる。この調整は、ピアノリストの好みのタッチや音、その日のプログラムに合わせ、ピアノの機能とピアノリストの持ち味を最大限に発揮させる役目をもっている。それだけでなく、会場の形や大きさに適した音量と響き具合にしなければならぬ。技術者は、手と耳の感覚でこれらすべてを判断し、勘と結びついたテクニックで調整を行なっていくのである。

ピアノは生き物だから

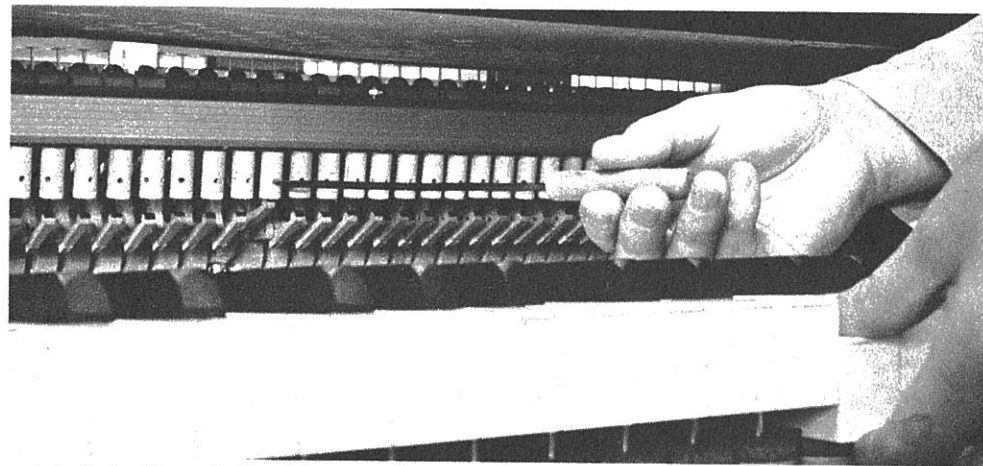
ところで、アクションの構造と製作については前回述べた。良いアクションは、たとえばフレンジという部品では誤差〇・〇五ミリという精度でつくられている。だが、リヒテルのエピソードでもおわかりのように、調整によってタッチや音をかなり変化させること

ができるのである。だから、ほんとうに優れたアクションというのは、設計、製作、調整と、三拍子揃ったものでなければならぬのである。

調整は、演奏会場やユーザー宅ばかりでなく、もちろん工場でも行なわれる。工場での調整は、ピアノ作りの最後の仕上げで、そのメーカーの思想が明確になる重要な工程である。〇〇〇のピアノの音を最終的に完成させるのは、調律技術者といってもいいだろう。

一方、演奏する場での調整は、ピアノの経年変化を正しい状態に戻すと同時に、弾き手の好みに合わせる作業である。一般の家庭でも、調律技術者に頼めば、自分の好みのタッチと音をもつピアノにしてくれるので、特に上級の人には、ぜひ一度試してみることをおすすめしたい。

さて、ピアノの調整はなぜ必要になってくるのか、メカニズムの面から説明してみよう。それは、アクションが木や皮やフェルトといった、天然の産物を使って作られているからである。これらの部品は温度や湿度の変化によつてわずかながら変化するし、それに何百回というアクションの作動で、接触部は強い力と摩擦を受ける。ハンマーにしても、八〇〜九〇キロという力で張られている鋼線を何



1. レギュレーティングボタンをまわして、弦とハンマーの接近間隔を調整する

度もたたけば、当然フェルトはへこみを生じる。もし、そのままソフトペダル（通称ソフトベダル）を踏んで弾いたりすると、打弦が不均等になってはつきり音に表われてしまう。何といっても、わずかに一箇所の調整が〇・二〜三ミリ狂っただけでもピアノ全体に微妙に影響してくるだけに、どんなに精巧に作られたアクションでも、最後には人間の手と耳に物を言わせた調整を施さないと、意のままに歌ってはくれないのである。

このような調整を行なう技術者には、特別の資質が要求される。演奏会場で調整をする技術者はコンサートチューナーと呼ばれているが、ここまでなるには素質とテクニクと経験が必要であるのは、はじめに述べたエピソードで明らかである。だからピアノメーカーは、ただ良いピアノを作るだけでなく、調律技術者の養成にも、大きな力を注いでいるのである。

整調、調律、整音は三位一体

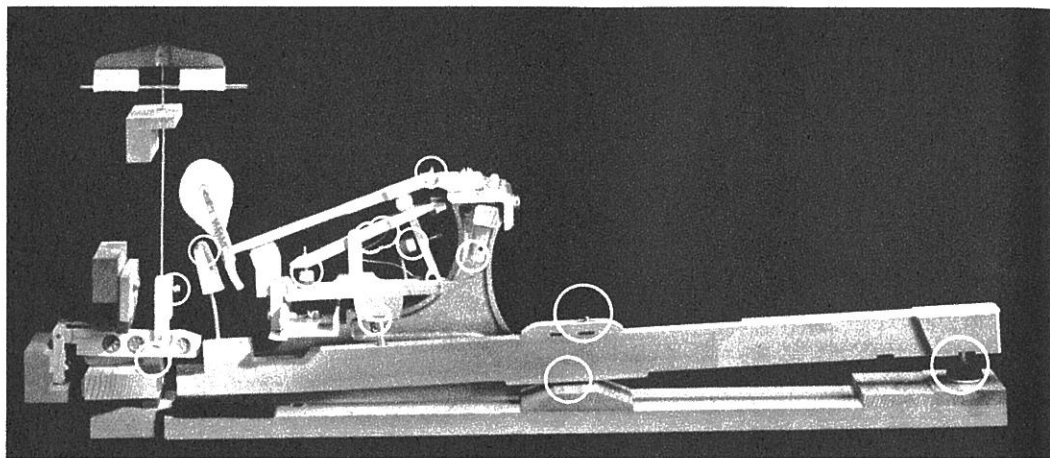
それではここで、出荷前のグランドピアノの最後の仕上げの模様を追ってみよう。

ピアノの八八鍵が、粒の良く揃った真珠の首飾りのように美しく整った音で鳴るようになるまで、実に三つの作業が行なわれる。整

調（アクションを調整して正しいハンマーの打弦ができるようにする）、調律（音程を合わせる）、整音（弦やハンマーを調整し全鍵にわたって音色を整える）で、この順序で行なわれる。（第二回で説明したように、弦はクリープを起こすので、調律は最終調整までに数回行なわれる。）この三者は相互に関連し合つて音をつくっていくので、全てのバランスがとれ完璧に行なわれたとき、初めて良い音が生まれるのだ。たとえば、整調でも整音でも音量を増すことはできるし、澄んだ音は、調律と整音がきちんとされていなければ出ない。ピアノは、一台一台丹念にみてゆかれる。

整調。技術者はまず、自分でピアノを弾いてみる。ハンマーは正しく動くか、タッチは一樣か、早いトリルがスムーズにできるか……八八鍵の音をきき分け、タッチを感じ分けていく。もちろん基準というのはあって、たとえば鍵盤を七〜八ミリ押したとき（ハンマーが一番高くなる）弦とハンマーの距離は三〜一・五ミリ、下まで押しきったときそれより約二ミリ離れるという具合なのだ。ここではそのわずかな許容範囲内で動かしてゆくわけである。

調整箇所は、鍵盤（高さ・深さ）、バックチェック、キャプスタン等、ほとんどが木と皮、



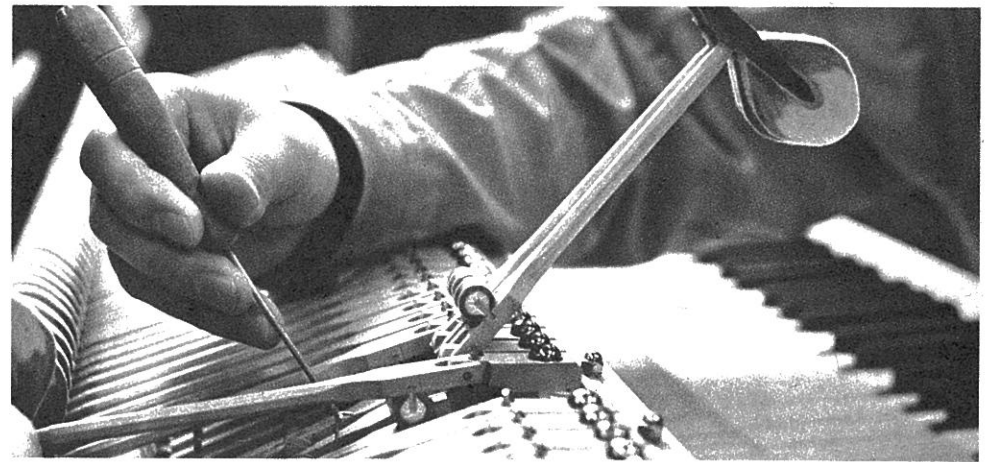
グランドピアノ・アクションの調整箇所

木とフェルトといった接触部分で、つまりこの部分に適当な摩擦をつけるのが整調とも言える。一鍵で一二箇所だと八八鍵で約一〇〇〇箇所、こう考えると気が遠くなりそうだが、しかし、いつまでも正しく良い音で鳴るように、そして弾き手の好みに合わせて修整できるようにわざわざ微調整部分が設けられているのである。互いに関連し合つた調整箇所のどこに手を入れたらよいかを判断するのが、テクニクの根本である。

調律。音をききながら、チューニングピンをまわす。殆どが一鍵につき三本の弦が張られているので、それぞれの音がびたり合うようにすることも重要だ。一〜二回めの調律にはオシロスコープが使われるが、やはりやはり美的感覚をもつ人間の耳の方が確かなのである。

整音。複数弦は、その水平レベルを揃えて打弦が均等になるようにする（弦の引き上げ）。次に、ペーパー（やすり）やピッカーでハンマーヘッドを整え、ピアノに生命を吹き込む作業。この工場での整音は、演奏会場での調整とはやや異なり、ハンマーメーキングの一部である。これが済むとペダル操作をしても、音色が乱れないか調べる。やっとピアノの完成、ずいぶん時間がかかるのである。

さて、冒頭に何か神業的なエピソードを紹



2. レベティションレバースプリングの強さを調整する



3. 弦の水平度を完全にハンマーに合わせる(弦の引き上げ)

介したが、調律技術者のM氏は、これを単なるテクニックではなく人間関係だと説明する。ピアニストと技術者の間にあるのはひとつの信頼関係で、技術者はピアニストのいわばホームドクターのようなものだ、と言うのである。技術者は、個性をもっていなければならぬ。だからピアノの調整は、状況に応じてとはいえあくまで鍵盤の深さは一〇±〇・五ミリ、打弦距離は四七±二ミリといった許容範囲内で行なう。その中で、ピアニストに自由な演奏をしてもらうわけである。

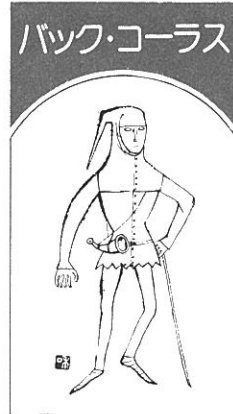
あるピアニストが言った。「バイオリニストは、どこの演奏会場でも自分の楽器で演奏します。だから、楽器に対する愛情はものすごく、命の次くらいに大切にしているんですね。でも、幸か不幸かピアノはそうどこへでも持ち運べるものじゃありませんから、私は会場へ行ってそこにあるピアノを弾けばいいわけです。」

ピアニストが安心して演奏会ができるかどうかは、コンサートチューナーの肩にかかっている。

私は五月にVテネーシのピアノ演奏会を聞きにいき、感激して大ファンになってしまいました。そんなものだから、「ピアノの本」にアッシュケナーのインタビューが載っていたときには、ほんとうにうれしかったです。それに、ボーニのことも書かれていたし、他にもフレイレやスロボジャニクのことなど載っているし、キャンパス拝見もその音楽大学のことがわかり、おもしろいでした。「わたしのレッスン法」というところで、小栗豊クンの場合が書いてありましたが、私はもうびっくりしてしまいました。すごいですね。

このように、「ピアノの本」は私にとって内容の濃いものだったように思います。次の号を期待しています。

(吹田市・松井俊子)



物を叩いてその物が振動する時、その振動する周波数を決定する物理量には二種類あります。ひとつはその物に加えられる張力とか圧縮力、もうひとつはその物自体が持っている剛性(弾性)です。

張力のみによって振動数が決まる例としては、糸です。糸をピンと張って引っぱって離すか叩くと、この糸は振動し、その振動数は次の式で表わされます。すなわち、

振動数 = $2 \times \text{糸の長さ} \times \sqrt{\text{糸の単位長さあたりの重さ} \times \text{糸の張力}}$

で表わされ、この場合n=1の二倍、三倍……となります。

「ピアノの本」二号を読ませていただきました。「ピアノの知識」のところを読んでいるうちにいくつかの疑問がでてきました。

一、なぜピアノの倍音は整数倍に出ないのか。

二、人間の耳に感じる意識は？ また何ヘルツか。

三、巻き線はなぜ弦が短くてすむのか。

四、差音という意味がわからない。

五、ピアノの音の共鳴はどこで起るのですか。

●なかなかむずかしい質問ばかりですが、お答えしましょう。

一、倍音について。

振動のもうひとつの例は棒です。例えば鉄棒を叩くと、この棒は振動します。この振動数は必ずかしい式になりますので省略しますが、倍音は基本振動数の整数倍になりません。さて、前置きが長くなりましたが、ピアノの弦の振動数は主として弦を引っ張っている張力によって決まりますが、弦の場合その剛性の影響を無視できず、そのため倍音がほんのわずかですが、少しずつずれます。

二、人間の耳について。

人間の耳が音を聞いてどのように感じるかは、むずかしい問題です。人間の耳は同時に聞いた二つの音であれば、どちらの音が高いか低いかをよく判別できますが、ひとつの音を聞いて、もうひとつの音を聞くまでの時間が長くなれば、その比較はできにくくなります。ですからここでは一応同時に聞く二つの音、ということに限って話をします。この場合には、人間の耳はたとえ一ヘルツでも違えば「うなり」として振動数のズレを聞きわけることができます。

三、巻き線について。

一、のどころの振動数の式をみて下さい。振動数を低く(小さく)するには①長さを長くする、②張力を小さくする、③糸の重さを大きくする、の三つがあります。従って目方の重い巻線の場合、長さはそれほど長くしなくても振動数は低くなるわけです。

四、差音について。

二つの違った振動数があるとします。今これに二二〇〇ヘルツと二二〇〇ヘルツとすることになり、二つの差音というのは一〇〇ヘルツということになります。すなわち二つの振動数の差です。

五、ピアノの音の共鳴について。

ハンマーで叩かれた弦は振動を始めますが、弦そのものから出る音はごくわずかです。弦の振動は駒を通して響板に伝わり、主として響板から音が放射されます。

*ご質問に一応お答えしましたが、なおわからない点がありましたらどしどし質問してください。